

授業科目	日本国憲法				
担当教員	細川 壮平				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 憲法は、我国の最も重要な基本法であり、幼稚園教諭・保育士には憲法の基本的な知識と法的思考力が求められている。本講義では、公務員試験や実社会で役立つよう、現実社会に生じている憲法的・法律的な出来事や最高裁判例や通説を中心に、人権論や統治論を理解する能力を身につけることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 憲法の基本原則について理解し、説明することができる。
  2. 基本的人権の内容と意義を理解し、説明することができる。
  3. 主要な事件についての判例の結論と理論が理解し、説明することができる。
  4. 主要な国家の統治制度を理解し、説明することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 テキストの該当箇所につき読みかたを考えておくこと。関係条文と判例を読んでおくこと(毎時2時間)。新聞・テレビ等で人権関連・憲法問題の報道に接したとき、問題点を把握し、考えること。新聞・テレビ等で国会・内閣・裁判所(裁判)のことが取り上げられたら、その内容を把握しておくこと(毎授業前までに2時間)。

回数	授業計画・内容
1	憲法総論
2	自然法思想と近代的立憲主義 社会契約説
3	社会権と現代的立憲主義
4	日本国憲法史
5	日本国憲法の成立と三大原理
6	日本国憲法前文と平和的生存権
7	国民主権と天皇 国家三権の関係
8	平和主義 憲法第9条の解釈と裁判
9	司法権と憲法保障
10	基本的人権の享有主体
11	人権保障の限界
12	包括的基本権と法の下における平等 新しい人権
13	信教の自由と政教分離 目的効果基準
14	社会権保障の現状
15	憲法全体講義のまとめ
16	期末試験

**成績評価の方法・基準**  
 試験 80%、授業時のワークシート 20%、計 100%

**教科書**  
 『憲法 第六版』芦部信喜 高橋和之補訂 岩波書店  
 判例六法 有斐閣 平成29年版

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 細かなことにこだわらず、大きな物語として取り組んで下さい。

授業科目	日本国憲法				
担当教員	竹内 典夫				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 憲法は、我国の最も重要な基本法であり、幼稚園教諭・保育士には憲法の基本的な知識と法的思考力が求められている。本講義では、公務員試験や実社会で役立つよう、現実社会に生じている憲法的・法律的な出来事や最高裁判例や通説を中心に、人権論や統治論を理解する能力を身につけることを目的とする。

- 授業の到達目標**
1. 憲法の基本原則について理解し、説明することができる。
  2. 基本的人権の内容と意義を理解し、説明することができる。
  3. 主要な事件についての判例の結論と理論が理解し、説明することができる。
  4. 主要な国家の統治制度を理解し、説明することができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 教科書の該当箇所を読んでおくこと。(各回2時間) また、新聞・テレビ等で報道された社会的・法律的出来事に注視すること。(授業前までに2時間)

回数	授業計画・内容
1	憲法の沿革と変遷 P18～
2	憲法前文と憲法の基本原則 P35～
3	国民主権と民主主義 P39～
4	基本的人権の享有主体 P87～
5	人権の観念 P80～
6	基本的人権保障の限界 P98～
7	憲法13条と包括的基本権 P118～
8	法の下での平等原則 P126～
9	精神的自由権とその分類 P146～
10	表現の自由とその内在的規制原理 P170～
11	経済的自由と職業選択の自由 P216～
12	受益権・参政権・社会権 P248～・P258～
13	三権分立と国会・内閣 P277～・P312～
14	司法権と国民の司法参加 P326～
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 筆記試験 70%とレポート提出(3回) 30%の総合評価、計 100%

**教科書**  
 『憲法 第五版』芦部信喜・高橋和之補訂 岩波書店  
 『判例六法』有斐閣

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 授業には『判例六法』を持参して下さい。

授業科目	外国語コミュニケーション I				
担当教員	池 和子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 読む、書く、聞く、話すのバランスを考慮したうえで、英語を読む力、聞き取り理解する基礎能力を身に付ける。また、ニュース・新聞記事、インターネット、看板、マンガなど様々なジャンルの英語で書かれた情報を正しく理解すると同時に、海外のドラマ、映画などで話されている英語を聞き取る能力を身につけることを目的とする。

- 授業の到達目標**
- (1) 英文を正しく読み、正確に聞き取ることができる。
  - (2) 基礎的な文法事項と英語表現を理解し、活用することができる。
  - (3) 辞書を適切に使うことができる。
  - (4) 異文化を理解し、自分の考えを平易な英語で表現できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・1～11 回まで毎回の授業につき予習復習(1 時間)  
 わからない単語は、意味だけでなく発音記号も辞書で調べておくこと。  
 毎回授業の最初に語彙に関する小テストをするので、復習しておくこと。  
 ・課題準備(1 時間)  
 ・まとめテスト準備(3 時間)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	発音、5 文型の確認
3	Unit 1 The Native Inhabitants of Australia
4	Unit 2 Terra Australis
5	Unit 3 The First Fleet
6	Unit 4 Settlement Beginnings
7	Unit 5 The Big Merino
8	Unit 6 The Newcastle Story
9	中間まとめ
10	Unit 7 Introduction, History
11	Unit 7 Life in the Past, Eating Habits of Australians
12	Unit 8 Ayers Rock
13	Unit 9 Lone Pine Koala Sanctuary
14	Unit 10 The Great Barrier Reef
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 小テスト 30%、課題 10%、まとめテスト 60%、計 100%

**教科書**  
 松原健二、松原浩子、Oliver Carter 著  
 『Features and Aspects of Australia 21 素顔のオーストラリア 21』南雲堂  
 2008 年

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・自ら学ぶ姿勢で授業に参加すること。  
 ・辞書を必ず持参すること。  
 ・教科書は、「外国語コミュニケーション II」で、引き続き使用する。

授業科目	外国語コミュニケーション I				
担当教員	船井 純平				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 読む、書く、聞く、話すのバランスを考慮したうえで、英語を読む力、聞き取り理解する基礎能力を身に付ける。また、ニュース・新聞記事、インターネット、看板、マンガなど様々なジャンルの英語で書かれた情報を正しく理解すると同時に、海外のドラマ、映画などで話されている英語を聞き取る能力を身につけることを目的とする。

- 授業の到達目標**
- (1) 英文を正しく読み、正確に聞き取ることができる。
  - (2) 基礎的な文法事項と英語表現を理解し、活用することができる。
  - (3) 辞書を適切に使うことができる。
  - (4) 異文化を理解し、自分の考えを平易な英語で表現できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 毎回講義後に配布資料、授業内容の復習(1 時間)を行うことが求められる。

回数	授業計画・内容
1	前期授業ガイダンス
2	新聞・ニュース記事①(文化) / 漫画①
3	英語のリズムについて / リスニング(situation comedy①)
4	新聞・ニュース記事②(海外事情、日本文化)
5	口語表現①～④(日課) / リスニング(situation comedy②)
6	新聞・ニュース記事③(社会問題、雑学)
7	口語表現⑤(健康) / リスニング(situation comedy③)
8	中間まとめ
9	リスニング(映画①/音変化)
10	リスニング(映画②/表現)
11	新聞・ニュース記事④(時事問題) / 漫画②
12	コロケーション / リスニング(situation comedy④)
13	新聞・ニュース記事⑤(芸能、音楽) / 英語の看板
14	口語表現⑥(ビジネス) / リスニング(situation comedy⑤)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 成績評価の配分は、中間試験 50%、期末試験 50%、計 100%

**教科書**  
 使用しない

**参考書・参考資料**  
 なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
 毎回授業の際には英和辞典を持参すること。

授業科目	外国語コミュニケーションⅡ				
担当教員	池 和子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
「外国語コミュニケーションⅠ」に引き続き、読む、書く、聞く、話すのバランスを考慮したうえで、読む力、聞き取り理解する力を身に付ける。また、ニュース・新聞記事、インターネット、看板、マンガなど様々なジャンルの英語で書かれた情報を正しく理解すると同時に、海外のドラマ、映画などで話されている英語を聞き取る能力を、より実践的な学びを通して修得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
(1)英文を正しく読み、正確に聞き取ることができる。  
(2)発展的な文法事項と英語表現を理解し、活用することができる。  
(3)異文化への理解を深め、自分の考えを豊かな語彙を用いた英語で表現できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
・1～11 回まで毎回の授業につき予習復習(1時間)  
わからない単語は、意味だけでなく発音記号も辞書で調べておくこと。  
毎回授業の最初に語彙に関する小テストをするので、復習しておくこと。  
・課題準備(1時間)  
・まとめテスト準備(3時間)

回数	授業計画・内容
1	Unit 11 The Pelican Capital of Australia
2	Unit 12 Kuranda
3	Unit 13 Gledswood Homestead
4	Unit 14 Australian Wildlife
5	Unit 14 Wide Range of Climates
6	Unit 15 The Symbolic Structures of Australia
7	中間まとめ
8	Unit 16 A Waterfront City - Sydney
9	Unit 17 The Victorian Capital - Melbourne
10	Unit 18 A Subtropical City - Brisbane
11	Unit 19 A Tropical Resort - Cairns
12	Unit 20 The Road to Multiculturalism
13	Unit 21 Travel Information
14	Unit 21 At a Restaurant
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
小テスト 30%、課題 10%、まとめテスト 60%、計 100%

**教科書**  
松原健二、松原浩子、Oliver Carter 著  
『Features and Aspects of Australia 21 素顔のオーストラリア 21』南雲堂 2008 年

**参考書・参考資料**  
なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
・自ら学ぶ姿勢で授業に参加すること。  
・辞書を必ず持参すること。  
・教科書は、「外国語コミュニケーションⅠ」から、引き続き使用する。

授業科目	外国語コミュニケーションⅡ				
担当教員	船井 純平				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
「外国語コミュニケーションⅠ」に引き続き、読む、書く、聞く、話すのバランスを考慮したうえで、読む力、聞き取り理解する力を身に付ける。また、ニュース・新聞記事、インターネット、看板、マンガなど様々なジャンルの英語で書かれた情報を正しく理解すると同時に、海外のドラマ、映画などで話されている英語を聞き取る能力を、より実践的な学びを通して修得することを目的とする。

**授業の到達目標**  
(1)英文を正しく読み、正確に聞き取ることができる。  
(2)発展的な文法事項と英語表現を理解し、活用することができる。  
(3)異文化への理解を深め、自分の考えを豊かな語彙を用いた英語で表現できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
毎回講義後に配布資料、授業内容の復習(1時間)を行うことが求められる。

回数	授業計画・内容
1	後期授業ガイダンス
2	新聞・ニュース記事(自然、芸術) / 記事タイトルの英語
3	口語表現⑦～⑧(交通機関) / リスニング(situation comedy⑥)
4	新聞・ニュース記事(食品、医療)
5	会話表現 / リスニング(situation comedy⑦)
6	新聞・ニュース記事(海外事情)
7	接頭辞・接尾辞 / リスニング(situation comedy⑧)
8	中間まとめ
9	リスニング(映画③/音変化)
10	リスニング(映画④/表現)
11	新聞・ニュース記事(有名人インタビュー)
12	口語表現⑨～⑩(情報・通信) / リスニング(situation comedy⑨)
13	新聞・ニュース記事(環境問題) / 漫画③
14	英語の同意語 / リスニング(situation comedy⑩)
15	まとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
成績評価の配分は、中間試験 50%、期末試験 50%、計 100%

**教科書**  
使用しない

**参考書・参考資料**  
なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
毎回授業の際には英和辞典を持参すること。

授業科目	情報基礎演習 I				
担当教員	花田 経子				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
短期大学における学びの中で重要な情報処理機器の操作技法を学び、文書作成・データ分析などを実施できるようにする。保育・幼児教育の現場で必要となる PC の操作技法を習得する。

**授業の到達目標**  
情報処理機器の操作技法を習得する。ネットワークを利用した情報探索、文書作成・表計算ソフトウェアを用いたレポート作成ができるようになる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
予習(1回 20分、5時間):タイピングの実施(英語・日本語)  
復習(1回 40分、10時間):PC 操作能力テスト合格のための練習、毎時の課題(ミニレポート)

回数	授業計画・内容
1	イントロダクション～実習室環境の理解、初期設定
2	PC 操作能力テストの実施(1回目)と講評
3	PC 操作基礎と情報検索技法
4	スプレッドシート基礎①～ページレイアウト、罫線、印刷設定
5	スプレッドシート基礎②～計算・関数
6	スプレッドシート基礎③～グラフ操作
7	PC 操作能力テストの実施(2回目)と講評
8	情報モラル演習
9	文書作成基礎①～ページレイアウト、図表のない文書入力、印刷
10	文書作成基礎②～表組み、罫線の取り扱い
11	文書作成基礎③～図形描画
12	PC 操作能力テストの実施(3回目)と講評
13	文書作成ツールによる園だよりの作成
14	スプレッドシートの活用によるデータ集計
15	PC 操作能力テストの実施(4回目)、最終課題
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
タイピング 15%、毎時の課題 30%、PC 操作能力テスト 25%、最終課題 30%、計 100%

**教科書**  
使用しない。必要な資料はすべて印刷配布およびイントラネット上で電子媒体で提供する。

**参考書・参考資料**  
実教出版『30 時間でマスター Office2016』

**その他(学生へのアドバイス)**  
毎日 PC に触れ、タイピングの練習を実施すること。予習と復習を必ず行うこと。PC 操作能力テストは 4 回目までに必ず合格(80 点以上)すること。

授業科目	情報基礎演習 I				
担当教員	松本 亜実				
開講時期	前期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
Office 系ソフトウェアを利用し、入力、文書作成の基本知識、グラフ等の作成方法を理解し、Office 系ソフトウェアが利用できるようになる。また、大学生として Web 情報の真意性、危険性を理解し、安全な利用方法を身につける。レポート記述の基本ルールを理解し、著作権を意識したレポートへの引用や記述ができるようになる。保育者視点で情報伝達するために保護者の目線を理解し、想像し、最終課題として「オリジナル園便り」の作成を目的とする。

**授業の到達目標**  
(1) 1 分間に 100 文字程度入力できる  
(2) Word の基本書式を工夫し利用できる。  
(3) Excel の基本関数・グラフを工夫し利用できる。  
(4) レポートの基本ルールに添ってレポートが記述できる。  
(5) Web 上の安全性や、著作権の概念が説明できる。  
(6) 図や罫線を利用し、保護者の目線でオリジナル園便りを作成できる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
毎回の授業内容の予習・復習(各 30 分)  
Web 上の安全性の課題動画の確認(レポート提出時まで 1 時間)  
課題レポート作成 セキュリティレポート(1 時間)  
最終課題のための準備(全体で 2 時間以上)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	メール設定、Word の基礎入力
3	Word の書式
4	図と図形の利用
5	罫線の基本
6	ビジネス文書
7	表、図形利用の遠足のお知らせ(課題作成 ルーブリック使用)
8	Web 情報の利用と著作権(レポート提出 ルーブリック使用)
9	Excel の基礎
10	Excel の計算と関数とグラフ
11	Excel 総合(課題作成 ルーブリック使用)
12	園だより原案とグループ相談 発表
13	総合課題 園便り作成 1(個人課題)
14	総合課題 園便り作成 2(課題提出 ルーブリック使用)
15	相互評価と講評
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
毎回のメール・アンケート・授業内容提出レポート 20%、タイピングスピード向上 10%、Word 遠足のお知らせ課題 10%、セキュリティレポート課題 10%、Excel 課題 10%、グループワーク発表 10%、総合課題オリジナル園便り 30%、計 100%

**教科書**  
30 時間でマスター Office2016 (Windows10 対応)実教出版編:実教出版編修部

**参考書・参考資料**

**その他(学生へのアドバイス)**  
授業内容は授業用内容にプレゼン資料、配布資料として公開している。やむを得ず欠席の場合事前に確認し、内容を復習すること。

授業科目	情報基礎演習Ⅱ				
担当教員	花田 経子				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
「情報基礎演習Ⅰ」で学んだ情報処理機器の基本操作をさらに応用させて、保育・幼児教育の現場で ICT を利用した教材の作成や活用ができる技術と知識を習得する。

**授業の到達目標**  
情報処理機器を自らの目的を遂行するために適切に利用できるようになり、テラスを身に着ける。子どもたちの想像力を伸ばす電子教材が開発できるようにする。

**自修について(予習・復習内容等)**  
予習(5時間):タイピングの実施、子ども向け動画・アプリの体験  
復習(10時間):毎時の課題(ミニレポート)作成、動画作品制作

回数	授業計画・内容
1	イントロダクション～PowerPoint の基本的操作技法
2	幼児向けプログラミングアプリの体験とプログラミング
3	絵本読み聞かせ動画作成課題①～絵本調査
4	絵本読み聞かせ動画作成課題②～ページスキャン
5	絵本読み聞かせ動画作成課題③～画像編集
6	絵本読み聞かせ動画作成課題④～音声入力
7	絵本読み聞かせ動画作成課題⑤～発表
8	情報モラル演習応用
9	データ分析演習応用
10	幼児における ICT 環境と ICT 教育
11	オリジナル動画作成課題①～プロット作成
12	オリジナル動画作成課題②～ストーリー作成
13	オリジナル動画作成課題③～画像編集
14	オリジナル動画作成課題④～音声入力
15	オリジナル動画作成課題⑤～作品仕上げ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
毎時の課題 40%、絵本読み聞かせ動画 30%、オリジナル動画 30%、計 100%

**教科書**  
使用しない。必要な資料は印刷配布するとともに、イントラネット上で電子媒体で配布する。

**参考書・参考資料**  
なし

**その他(学生へのアドバイス)**  
タイピングは必ず実施すること。毎時の課題は必ず提出するとともに、作品制作では時間内に作成できなかった部分は必ず翌週までに進めること。

授業科目	情報基礎演習Ⅱ				
担当教員	松本 亜実				
開講時期	後期	講義形態	演習	単位数	1単位
学科 DP との関連	DPⅠ		DPⅡ		DPⅢ
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
保育現場での利用を意識したプレゼンテーションソフト Microsoft Office PowerPoint の操作を理解し、オリジナル電子絵本を作成できるようになる。保育者として電子絵本の作成を通して、絵本への興味を持ち子どもや他者とのコミュニケーション能力の向上を修得する。

**授業の到達目標**  
(1) Power Point を利用できる。  
(2)自分で構成を考えて Power Point を利用できる。  
(3)絵本のストーリーを考えられる。  
(4)読み手を意識してオリジナル電子絵本の内容を工夫して考えられる。  
(5)他学生の絵本を読み、アドバイスや自分への振り返りができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
意識して絵本に触れ、何冊か読むこと。(1時間以上)  
絵本の分析やオリジナル絵本を意識して考えること。(1時間以上)  
授業内容の理解不足の場合復習をすること(30分以上)

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーション
2	Power Point の基礎 1 ペイントの利用
3	Power Point の基礎 2 絵本のプロット分析(課題 A 提出)
4	オリジナル絵本ストーリー決定と絵コンテ作成(課題 B・C 提出)
5	電子絵本作成 1 全体のページ割 表紙作成
6	電子絵本作成 2 (中間発表用提出)
7	電子絵本中間発表
8	電子絵本作成 3 画像・文字挿入
9	電子絵本作成 4 音楽、アニメーション設定
10	電子絵本作成 5 画面切り替え設定 リハーサル作成
11	電子絵本作成とブラッシュアップ (随時提出し相互評価の実施)
12	電子絵本作成とブラッシュアップ・最終提出 (オリジナル電子絵本最終提出・自己評価ルーブリック提出)
13	電子絵本発表と講評 A グループ発表 B・C レポート提出
14	電子絵本発表と講評 B グループ発表 A・C レポート提出
15	電子絵本発表と講評 C グループ発表 A・B レポート提出
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
毎回のメール、アンケート、授業内提出レポート課題 10%  
課題 A・B・C 他社評価レポート提出 10% 中間発表 10%  
相互評価貢献度 10% オリジナル電子絵本作品 60% 計 100%

**教科書**  
「情報基礎演習Ⅰ」のテキストを継続使用

**参考書・参考資料**

**その他(学生へのアドバイス)**  
オリジナル絵本のアイデア、作業課題の不安など随時提出すること。

授業科目	日本語表現				
担当教員	鈴木 仁人				
開講時期	前・後期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 社会人として求められる、基本的な教養としての日本語力と自ら学び続ける姿勢を身につける。また、日本語の特色を知り正しく分かりやすい文章表現力を習得することで、保育者として必要な教養とコミュニケーション能力が発揮できるようになることを目的とする。

**授業の到達目標**  
 1. 現代社会に必要な日本語の知識を理解し、自らの考えを言葉で表現して説明できる。  
 2. 社会生活に必要な、正しくわかりやすい日本語を使った表現力を習得し、共感に基づくコミュニケーション能力を身につける。  
 3. 日常生活において、他者への理解を図り豊かな人間力の獲得に努める。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・語彙習得を目的とした小テストの復習(1時間)を行う。  
 ・課題プリント(2時間)を行うことで、授業の確認をする。  
 ・資料等を整理する(1時間)ことで、課題発見と試験の準備をする。

回数	授業計画・内容
1	ガイダンス 日本語に関する模擬テストと解説
2	日本語の特色(1) 敬語・語種・音訓・国字
3	日本語の特色(2) 音韻・助数詞・アクセント
4	原稿用紙の使い方 縦書き・横書き、数字表記
5	文型による短文作り 列挙・対比・理由・推量など
6	日本語の言葉遊び 回文・折句・アナグラムなど
7	パラグラフ トピック文・サポート文の理解
8	自己表現の方法 体験・事実・エピソードの活用 日本語表現前半のまとめ
9	作文の準備 体験の掘り起こし・パラグラフ作り
10	文を書く(1) 題材のメモ・構成
11	文を書く(2) 提出作品の完成
12	間違いやすい日本語表現(1) 慣用句・ことわざの誤用
13	間違いやすい日本語表現(2) 助動詞・敬語の誤用
14	作文の推敲と清書
15	日本語表現後半のまとめ
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 課題提出とその内容、小テストで50%、筆記試験で50%、計100%

**教科書**  
 参考書・参考資料  
 必要な資料はプリントして配布する。  
**その他(学生へのアドバイス)**  
 ・授業で不明な点をそのままにせず、質問に来る。  
 ・欠席をしない。欠席をした場合は資料を取りに来る。

授業科目	日本語表現				
担当教員	赤羽根 有里子				
開講時期	前期	講義形態	講義	単位数	2単位
学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

**授業の目的**  
 日本語の特色を知り、分かりやすく、正しい表現をする力を身につけることは、社会生活をしていくうえでとても重要である。  
 この授業では、人間の生活や文化をテーマにした様々な文章を鑑賞すること等によって、日本語に関する知識や語彙を身に付け、日本語表現の特色についての理解を深め、日本語表現の力を向上させることを目的とする。また、よりよい人間関係が築けるように、学んだことを自分の表現活動に生かしていくことを目指す。

**授業の到達目標**  
 1 様々な文章の鑑賞を通して、日本語表現の特色に気づき、それについてまとめ、文章等で表現することができる。  
 2 日本語に関する知識・語彙を身に付け、よりよい人間関係が築けるように、学んだことを自分の表現活動に生かして、記述や発表ができる。

**自修について(予習・復習内容等)**  
 ・1～10回まで毎回の授業の予習・復習各2時間  
 ・参考文献等の読書10冊(1冊につき2時間)  
 ・12～14回までレポートの準備及び発表の準備として合計20時間

回数	授業計画・内容
1	はじめに 授業のねらい・目標・内容
2	日本語の文章から学ぶ(1)評論文
3	日本語の文章から学ぶ(2)文学作品
4	日本語の文章から学ぶ(3)論説文
5	日本語の特色(1) 敬語・語種・音訓等
6	日本語の特色(2) 音韻・助数詞・アクセント等
7	日本語の特色(3) 回文・折句・アナグラム等
8	日本語の表記 縦書き・横書き、数字表記等
9	よりよい人間関係を築くための表現(1) 素話—創作童話。
10	よりよい人間関係を築くための表現(2) 素話—昔話
11	学んだことを自分の表現活動に生かす(1) 構想
12	学んだことを自分の表現活動に生かす(2) 下書き・推敲
13	学んだことを自分の表現活動に生かす(3) 清書・提出・発表
14	自分の表現を見直す—間違いやすい日本語表現について
15	まとめと今後の課題
16	なし

**成績評価の方法・基準**  
 ①小テスト、②提出物、③発表、④最終レポート  
 ①～③60%、最終レポート40%、計100%

**教科書**  
 国語表記ハンドブック(三省堂)。  
 その他、必要な資料は随時配布する。  
**参考書・参考資料**  
 必要な参考文献は随時提示する。  
**その他(学生へのアドバイス)**

授業科目	日本語表現				
担当教員	上田 信道				
開講時期	後期	講義形態	講義	単位数	2単位

学科 DP との関連	DP I		DP II		DP III
	1	2	1	2	1
	◎	◎			

<b>授業の目的</b>
学生時代及び卒業後に必要とする各種の文章表現能力を育成する。公式の挨拶、適切な質問と応答のやり取りなど話す能力の育成も視野に入れるが、主として書簡文、説明・解説文、読書感想文、評論・批評文など書く能力の育成に重点を置く。

<b>授業の到達目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正確でわかりやすい日本語表現の方法について、基礎的な事項を実践的に身に着ける。</li> <li>・ 書簡文、説明・解説文（マニュアル）、読書感想文、評論・批評文など社会人として身に付けるべき文章表現能力を実践的に身に着ける。</li> </ul>

<b>自修について（予習・復習内容等）</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1～14 回まで毎回の授業の予習・復習等</li> <li>・ 授業中に配布するプリントやワークシートに基づくレポートの作成 10 点</li> <li>・ 最終課題の準備等</li> </ul> （毎回 2 時間の予習・復習をすること）

回数	授業計画・内容
1	オリエンテーションと総論 文章表現法でどのようなことを学ぶか
2	日本語表現の特色と正しい表記① 主題と主語、語順など
3	日本語表現の特色と正しい表記② 話しことばと書きことば、文体の書き分けなど
4	日本語表現の特色と正しい表記③ 漢字と仮名遣いの基礎
5	日本語表現の特色と正しい表記④ 四字熟語、故事成語など
6	日本語表現の特色と正しい表記⑤ 敬意の表現と敬語の使用など
7	文学的文章と論説的文章の違いを知る （タイトル、書き出し、文体の違いなど）
8	より豊かな文章表現について考える（辞典類の使いこなし方など）
9	履歴書を書く技術（履歴書の形式や作法など）
10	書簡文を書く技術（手紙の形式や礼儀など）
11	文章を書く技術① 要点をまとめる（要約文など）
12	文章を書く技術② 文の構成を考える （テーマをしぼり、文をつなぐことなど）
13	文章を書く技術③ 適切な表現について考える （原稿用紙の使い方、例示や引用の方法など）
14	文章を書く技術④ 文を整え、良いタイトルについて考える （推敲や校正など）
15	まとめ
16	なし

<b>成績評価の方法・基準</b>
授業での発表内容や発言内容ほか 20%、実技の習得状況や提出物ほか 10%、筆記試験（テキスト・ノート持ち込み可）70%、計 100%

<b>教科書</b>
沖森卓也ほか編『日本語表現法 改訂版』（三省堂）
<b>参考書・参考資料</b>
講義の都度、必要に応じて指示する。
<b>その他（学生へのアドバイス）</b>
授業にはテキストのほか、国語辞典や漢和辞典類を持参すること。 電子辞書（スマートフォン可）が望ましい。